

<http://www.osaka-c.ed.jp/semboku/departement/general.science/ssh>

SSH 広報委員 (3年生) 永吉奎太、加藤貴大、小林史弥、島田明日斗、下湯瀬夏生、杉本拓生、松岡瑠奈、松下怜奈、向川崇、川路遼介、永嶋明良、古塚来未、津坂元気
 (2年生) 井上駿也、大坪柊也、岡亜美、木村遼太郎、田中優、辻直希、西村友希、福田凌大、前田雄亮

■泉北子ども科学フェスティバルを開催(12月)

2015年12月20日(日)に、泉北高校主催の第3回 泉北子ども科学フェスティバルが開催されました。この行事は本校の科学技術人材育成重点枠の1つの柱である地域の科学教育の拠点となることを目指した取組の一環として実施しているものです。毎年、地域の子どもたちに好評で、今年も近隣の小学校から約250名の小学生とその保護者の参加があり、どのブースも実験や工作に熱心に取り組む小学生たちで大盛況、担当の生徒が休憩するひまもないほどでした。

今年は、泉北高校の1年生の科学探究基礎受講者から10テーマ(右表の1~10)と、サイエンス部から3テーマ(11~13)、他のSSH指定校に呼びかけて応じていただいた大阪府立住吉高校のサイエンス部の1テーマ(右表の14)の合計14個のブースができました。

内容的には、情報班が工夫して作成した「アハ体験」から、いつも小学生が絶えなかった「スライムづくり」まで、いろいろな分野のものがそろいました。

●担当した高校生の感想

- ・子どもと実験をいっしょにすることで、科学の楽しさを再確認した。子どもたちに科学に興味を持ってもらえたとともに、泉北高校のことを知ってもらえてよかった。
- ・子どもに色々質問をされて、どう答えたらよいかを考えると、自分でも学べたことがたくさんありました。

●参加した小学生や保護者の感想

- ・なかなか興味深い項目でよく考えられたものばかりでした。これを機会に、科学に関心を持ってもらえたらと思います。
- ・優しく、礼儀正しい高校生たちの姿に感激しました。子どももあんな高校生になりたいと理科への興味だけでなく、近い目標ができた様子でした。
- ・本とかで読むよりも実験を見た方が分かりやすかった。
- ・とてもやさしくわかりやすい説明だった。

1	アハ体験で遊ぼう！
2	レモンってすごい！！
3	酢でお絵かき
4	スライムの状態変化であそぼう！
5	ザ・雲をつくろう！
6	不思議！パイプで奏でる音の世界
7	浮沈子の不思議
8	ファンデーションで指紋検出！
9	座標を使ってぬり絵をしよう！
10	川渡り問題をやってみよう
11	葉脈しおりを作ろう！！
12	チリメンモンスターをさがせ！
13	人工イクラを作ろう
14	偏光板を用いた万華鏡



■台湾の国立彰化高級中学校で研究発表

本校はこれまで台湾の2つの高級中学校と交流を続けています。このうち、国立彰化高級中学校(以下彰化高校)は昨年10月に本校に来校され、いっしょに理科などの授業で実験をしたり、ホームルームなどでも交流をしました。昨年度も12月に、泉北高校と彰化県の2つの高校との合同研究発表会が開催され、本校から当時の生物4班がナメクジの研究について英語で発表を行いました。その成功を受けて、今年も彰化高校から招待があり、12月23日に第2回の合同発表会が行われました。その前後の時間では、英語と化学の授業に参加して交流をしました。

●台湾での合同研究発表会で研究発表を行って

私たちサイエンス部員2人は、12月22日23日に台湾の彰化高校に発表をするために行きました。彰化高校は以前泉北高校で交流した高校で、訪れて最初に彰化高校の生徒さんが台湾にある果物、台湾のカップラーメン、お茶など台湾の名産を説明してくれました。グアバのドライフルーツを作る過程を教してもらい、実際に食べてみました。甘くはなかったですが、弾力があり美味しかったです。その後、別の部屋に移動して、研究発表を行いました。最初に彰化高校から4題の発表があり、私たちの発表の順番になり、今回は英語の発表だったので、普段日本語で発表していた私たちは練習はしていったのですが、彰化高校の生徒に理解してもらえるのか不安でした。発表が終わると拍手をしてもらい、成功したんだと思いました。発表が終わったら、10月に泉北高校で交流した時に知り合った生徒と再会することができました。

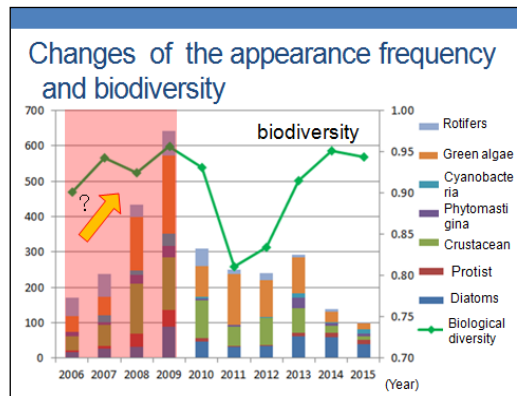
発表が全て終わると、実際に彰化高校でやっている化学の授業に参加しました。化粧品を作る実験で授業は英語で進みましたが生徒さんが親切にしてください楽しむことができました。今回の発表で多くの経験をする事ができました、この経験を次に活かしたいと思います。(杉本)



**HISTORY OF PLANKTON
IN SEMBOKU HIGH SCHOOL BIOTOPE**

10年的泉北高中生活小區池塘浮游生物的歷史

Osaka Prefectural Semboku
High School Science club



■第2回サイエンスツアー：10月18日に実施

毎年、第2回のサイエンスツアーは、サイエンス部が企画・運営をすることになっていますが、今年は10月18日（土）に、須磨海浜水族園と明石市立天文科学館に希望者34名で実施しました。場所や日程の決定・しおりの作成、参加者を集めての事前の説明会もすべて、サイエンス部がやってくれました。

- 1) 神戸市立須磨海浜水族園（サメやウミガメが泳ぐ「波の大水槽」やピラルク・ピラニアなどを多数飼育する「アマゾン館」・「森の大水槽」など、様々なタイプの展示を見学）
- 2) 明石市立天文科学館（東経135°の日本標準時子午線上に建つ日本最古の1960年開館の天文科学館で、プラネタリウムを体験するとともに、様々な天文関係の展示を見学）

●サイエンスツアーに参加して

今年のサイエンスツアーは明石天文台と須磨水族館を訪れました。午前中は須磨水族館を訪れ、ペンギンやイルカなどのメジャーな生物から、ピラルクなどのアマゾンに住むマイナーな生物に興味を持ち、各々が自由に見て回っていました。

午後からは明石天文台を訪れ、天文や時計の歴史、世界の標準時についての展示物を見て回りました。13階からの景色は別格でとても印象に残りました。2時半から投影されたプラネタリウムでは、主に金星のことについての説明がなされ、全員が熱心に聞き入っていました。（永吉）



■第3回サイエンスツアー：1月9～10日に実施

1月9日（土）「神奈川県立生命の星・地球博物館」で見学と研修、夜は見学研修報告会

1月10日（日）午前中は「国立天文台」を見学、午後には「国立科学博物館」を見学後、帰阪。

●第3回サイエンスツアーに参加して

1月9日と10日の二日間、希望者で第3回サイエンスツアーが行われました。行先は関東方面で、今回は主に生物・地学分野の施設を巡りました。宇宙や地層、火山、化石などの展示をしている施設を3つ巡った中で、特に私はこのツアーの各施設で主に「鉱物」の展示が印象に残っています。日本には多くの鉱物が埋まっていることに感動しました。その中でも胆礬（たんぱん・英名カルカンサイト）という鉱物はとても美しい瑠璃色をしていました。他の展示も見飽きませんでした。また行く機会があれば行きたいと思いました。

（松岡）



■サイエンス部の活動紹介

●「私の水辺」泉北交流会で発表とブース展示(1月23日)

1月23日(土)に開催された「私の水辺」泉北地域交流会に参加しました。

泉北高校サイエンス部では、アフリカツメガエル・アカハライモリ・プラナリアの展示とチリメンモンスター、何種類かの微生物を顕微鏡で観察してもらいました。アカハライモリは餌としてアカムシを与えて食べている姿を観察してもらいました。生物班はビオトープの10年間の変化についての発表を行いました。また、ブースでもそのことについてのポスター展示をしました。他のブースでは葦笛づくりや家庭での雨水利用、石津川に鮎を戻したプロジェクトなどのたくさんの興味深い展示がありました。このイベントを通して、泉北地域周辺の水に関連することについて知ることができました。(木村)



●「サカイエンス」で科学教室開催(1月31日)

1月31日(日)に、深井にある堺市立教育センター(ソフィア堺)で、「サカイエンス」(堺市教育委員会主催)がありました。このイベントは約20テーマの出展があり、4000人が参加する大きな規模のものでした。それぞれのブースでは様々な内容の科学の体験ができ、イベントの主な参加者である小学生には、見たことのないものばかりでとても興味深そうでした。そして、子供だけでなくいっしょにきた保護者の方々にも楽しんでいただけました。私たちサイエンス部からは、チリメンモンスター探しと紫キャベツの実験を出展しました。私たちのブースにも約250人の参加者があって一日中忙しかったのですが、参加した多くの人たちに喜んでもらえて、とてもいいイベントでした。



ご意見、お問い合わせは以下にお願いします。木村 (SSH通信担当)・松井 (教頭)
Tel 072-297-1065、Fax 072-293-2376、e-mail ssh@semboku.osaka-c.ed.jp